

東日本大震災の原発事故に伴う風評被害に直面する福島県の商店街を支援するイベントが青森や石川、千葉などで開かれている。「一店逸品運動」と呼ばれる街の活性化に取り組み各地の店主のネットワークによる共助の企画だ。関係者は「運動の裾野を広げ、相互交流を深めるきっかけにしたい」と話す。

一店逸品で相互交流

6月17、19日の週末。JR青森駅前の「さくら野百貨店」の1階特設会場で開催されたフェアは多くの青森市民でにぎわった。「応援しようノ東北復興」と銘打った会場の主役は二本松と郡山、いわきの福島県内3市の商店街の「当地商品」。「油揚げ味噌漬」「とうふどーなつ」「茶飴」といった名前が各商店主のこだわりをPRする。原発事故に伴う風評被害は深刻だ。「観光客ばかりか買い物に訪れる地元の人々が激減した」(二本松商工会議所)。郡山市ではいくつかの店が廃業に追い込まれた。イベントを主催した青森市新町商店街振興組合の伊香佳子さんは「一店逸品運動の仲間内として何とかしたかった」と話す。同様のイベントは、4年前の能登沖地震を知る石川県志賀町の共同店舗

店主の輪、復興を支援

主な一店逸品運動の先進事例

(カッコ内は開始年と参加店舗数)

石川県志賀町・富来アスク (2008年、15) 共同店舗方式	青森市新町商店街 (2003年、54) お店回りツアー
	埼玉県・富士見市商工会 (2006年、45) 地元大学生と連携の動画配信
	千葉県・稲毛商店街 (2004年、13) 5万人の地域イベント「夜灯(よとほし)」の主催
	愛知県碧南市・碧南商工会議所 (2006年、31) 市が全面的支援

逸品に「開発型」と「発掘型」

太田さんによると、逸品には「開発型」と「発掘型」の2種類ある。前者の具体例が、地元の伝統工芸のシカのなめし革を素材にブックカバーを作製した甲府市の書店。後者の例として、インターネットで見つけた竹繊維の市販タオルを仕入れ、「敏感肌の人にお勧め」のうたい文句で看板商品に育てた新潟県十

農家や保険業も参加

日町市の洋品店を挙げ伊勢原市の店も加わる。「やる気」が「だわり」がディスプレイや接客の改善につながり、素通りの水嶋祥貴さんによると、初年度の逸品のお披露目イベントは半年先にわけた。安易な発想は通じない。補助金目的のイベントで足並みを乱したからだ。今年はお互いに仲間の店を回る。「買い物客の目線を新たな逸品に生かしたい」と話す。

独自の品ぞろえで誘客

来場者をもてなした。「よその商店街との交流」店主らの挑戦は続く。

を手始めに千葉県松戸市や千葉市、山形県最上町の商店街で開催。松江市でも話が進む。特定非営利活動法人(NPO法人)「一店逸品運動協会」(東京)に加盟する店主のネットワークが共助の輪をはぐくむ。福島の店主に代わって販売する商品の多くは買い取り制。

「売れ残れば赤字」の草知恵を絞り、地元の客を呼び戻そうという取り組み。アークードや街路なみ。ハード重視のまちづくりや行政頼りの古い発想の品ぞろえや新商品に捨て、有志だけによる



原発の風評被害に悩む福島の商店街を支援するイベント(青森市)

「店のやる気」をよりどころとする呉服町の成功例は全国各地の2代、3代目の若手店主らの心をつかんだ。新町商店街は2003年のスタート以来、試行錯誤しながら先頭集団を走り続ける。今や参加店の力添えを得て7月18日から実施する。商店主自らが逸品を案内する「お店回りツアー」や、店主のイラストや写真を載せた遊び心あふれる逸品カタログは、後発のいわき市などの良き手本になっている。今回のイベントでは、いわきと郡山市のメンバーも伊香さんと一緒に来場者をもてなした。「よその商店街との交流」店主らの挑戦は続く。